

落語: バールのようなもの 立川志の輔 & 清水義範



えー、清水義範さんという方はいろんなすてきな文句を残してくれまして、私もああ、いいなと思う文句がいっぱいあるんでございますけれども、あの方が対談の中でふっと一言おっしゃいましたね。テレビをいつもうちで

5 休み休みに言えっ！」って見ているんですって。これはいいですね。

あの、この前もふっとテレビ見ておりましたら、テレビショッピングですよ。えー、**桐ダンス**を売ってたんですけれどね。6段重ねの。これがね、40周年記念だということで、何つけてくれるのかなと思ったら、6段重ねにもう1段つけて、7段重ねにする。そんなのいらないよ、と思うようなことを平気で真顔でやっていますから、すごいもんですね、テレビという**媒体**はね。

10 まあ、皆さんも**薄々**あれは嘘なんだろうなと思いつつ、見ているけれども見ているうちにはまっていくというのがテレビの魔力というか魅力でもあるわけですね。

あんなないでしょう、女の子二人で**グルメ**の旅に出るなんつって、人っ子いない、一人いない、**野原**の道みたいところを歩いて、「こんなところに誰がいるのかしら」なんて、「あー、あんなところでおじいちゃん」なんつって、川のところで、じいさんが**どじょうすく**ったりなんかするんですが、「おじいさん！」な

15 なんていうと「おー！」なんて手振ってくれてたりなんかするんですが、

「おじいさん、何やってんの？」

「わしか？わしは今、どじょう、とっとるんじゃ」

でもこのシーンを考えるとですよ、とりあえず自分もこの仕事に携わっていますから、少なくとも、じいさんから見ると二人の女の子と後ろにはカメラマンがいて、ライトの方がいて、演出家と少なくとも最低でも5

20 人が後ろから**覆い被さる**ようにいるんですよ。そのおじいさんが何にも気にしないで、

「ああ、どじょう、とっとるんじゃ」

「ほんとー。このどじょう、食べられんの？」

「もちろんだとも。よかったらうちへ来ないか？」

そんなじいさんいませんよ。ついてっちゃうんだもん。ついてったって、**どじょう鍋**なんだもん。

25 「うあ！おいしい。こんな、生まれてはじめて、ねえー」

「こんなおいしいもの食べられて、で、この近くについでに温泉なんかあったりしたらね、最高よねえー」

「実は、あるんじゃ」

やなじじいだな。そんなじじいいないよと思うのですが、テレビには堂々と。で、よくもう一回目を凝らしてみると、じいさんの胸には**ピンマイク**がついていたりするわけですね。これが不思議だともう皆さんも

30 だいたい思っているんだけど、テレビはこう作らざるを得ないから、**未だに堂々**と作っているのをございま

す。これが実におもしろいところでございますね。

えー。ニュースのNG集って、見ました？極まりましたね、もうNG集も。そのNG集の中で一番笑えたNG集。函館のハイジャックの現場、スタジオでアナウンサーが、

「というわけで、犯人の要求は未だ何も出ておりませんし、人質の数、それから犯人の数など、今のところ
5 正確な数字が出ておりません。えー、それではここで、あ、現場の函館空港に行っております高橋記者、呼んでみましょう」

臨場感、持たせようと思ったのでしょうね。自分のキャスター席のところにあるボタンでトントントンと携帯電話を呼び出したんですね。

「あー、もしもし、もしもし、あ、あの一、そちらのほうはどうですか？その後、要求は何か出てますか？」

10 「はあ？」

「何か要求は出ていますか？」

「何の？」

「いえ、もしもし、あの一、犯人の要求は出ていますか？」

「もしもし、どちらお掛けですか？」

15 「高橋記者ですか？」

「いえ、山本ですが」

「あ、山本記者ですか」

「いや、布団屋の山本ですよ」

「どうも、失礼しました」

20 **ガチャ**って切っちゃうんですよ。

「えー、とりあえずお知らせです」

って、お知らせ行っちゃうわけですよ。そのあと、楽しみじゃありませんか、どうなるかって？ねえ、そのあと、**CM**明けたら、さすがに、

「もしもし、あ、高橋記者ですか？」

25 「はいはい、函館空港の高橋です」

とこう言ってくれましたけど、こういう時に、高橋、これがニュースの限界ですね。これが**バラエティ**だったら、絶対つながった高橋記者も

「もしもし、高橋記者ですか？」

「いえいえ、布団屋の山本です」

30 って必ず言ってくれると思いますよ。まあ、実際にあるんだから、それを**NG集**で流すってことは完全にニュースも**開き直っている**状態だってことでございますね。えーまあ、よく言えば、おもしろいおもちゃ箱、**見方**を変えるとテレビってものすごく楽しめる媒体でございますけども、…。

八つつあん：こんにちは！隠居さん、こんにちは！

隠居：おいおい、あ、八つつあんかい？あー、はいはい、お上がり。

八：どうも、おじゃまします。

隠：そりゃ？

八：いえ、はいはい。

5 隠：そんな**古典**でも言わないようなこと、言うんじゃないよ。何しに來たんだい？

八：実はね、しばらく來ない間にわかんないことがこんなに溜まっちゃったんで、えー、聞かせてもらおう
と思ひまして。隠居さん、何でも知ってますもんね。

隠：あー、**わたし**ゃ、何でも知ってるな。知らないということを知らないというぐらいにものを知ってい
るな。

10 八：ああ、そうでしょう。ねえ、あのね、先週、動物園に行つたんですよ。

隠：ふんふんふん。

八：あのー、動物園見てましたら、ライオンいますでしょ。ライオン。

隠：ああ、**百獣**の王、ライオンな。

八：ええ、あれね、あの、体に比べて、他の動物に比べて、すごーい頭がでかいんですけど、何でライオ
ンってあんなに頭がでかいんですかね。

15 隠：ライオンの、なぜ、頭が大きいかって、そんなこと、聴きに來たのか、**おまえ**さんは。バカだな、少
し**考え**りゃすぐにわかるだろう。あれは檻から出られないようにあれは頭が大きくなってるんだ。

八：あ、なるほど。檻から出られないように。すると、ライオンより、檻が先にできたんですか？

20 隠：あたりまえじゃないか。檻もないうちにライオンなんか、(a.)。私もおまえさんも今頃は
生きちゃいないよ。

八：あ、なるほどね。そりゃそうだ。キリンね。

隠：何？

八：キリン。

隠：うん、キリンが？

25 八：キリンの、あの、くびって何であんなに長いんですかね？

隠：キリンのくびが何でそんなに長いかって、おまえ、少しは使いなよ、頭を。ええー、考えりゃすぐわか
ることだ。そんなキリンのくびがなぜそんなに長いかって、(b.)。しかたがないだろう。

八：あー、なるほどね。そりゃ、あんだけありゃくびが長くなりますわね。いや、でも、頭、ぐーっと降
ろしてきたらどうなりますか？

30 隠：**口バ**と区別がつかんだろう。

八：ああ、なるほどねえ。へいへい、言われてみりゃ、そうですわね。蚊なんですけどね。

隠：何？

八：蚊

隠：蚊って、何かい、あの**夏場**に出る？

35 八：そうですよ。それがね。この間、春にもなっていない時に、**ぽか**っと暖かい日があったじゃないです
か。その時に、ブーンって飛んできちゃって、何だかわかりませんが、**季節外**れの蚊、喰われちゃっ

てもうかゆくてかゆくて一晩中**掻いて**、眠れなかったんですよ。あれ、蚊ってなぜ、あの、刺されるとかゆいんですかねえ？

隠：何？

八：いや、蚊って何でこう、あの刺されるとかゆいんですかね？

5 隠：まったくもうおまえさんっていうのはくだらないことしか聞かないねえ。え？蚊に刺されてなぜかゆい
かって、かゆくなくちゃ、(c.)。

八：あ、なるほどね。そりゃそうですよね。刺されたのがわかってて、どこ**掻いたら**いいかわかんねえほう
がもっとイライラしますもんねえ。あー、隠居さんはものを知ってる！

隠：バカヤロ、そんなことで**いちいち**感心するんじゃないよ。もうお帰りよ。

10 八：いえいえ、まだ聞きたいことがあるんですよ。あのね、あの、この前、あの、夜中にねえ、あの、焼き
そばを喰ったんですよ。

隠：○×**ヤング**か？

八：う、いいんですか？そういうこと、こう言って？NHKですよ。

15 隠：いいよ、そんなものは。ピーって入るに決まってる。ピーヤングになってるよ。心配することないよ。
先進めな。

八：ああ、そうですか。あの、お湯をね、お湯を**流し台**のところで、こうやって捨ててたんですよ。そした
ら、しばらく捨てた頃になるとねえ、流し台が、**ベコーン**っていうんですよ。あれ何ですかねえ？

隠：おまえさんもそうなるかい？

20 八：隠居さんも喰ってたんですか？うれしいなあ。こうやるとね、ベコーンってなるでしょ。あれ何です
かね？

隠：いやあれもな、あたしゃその時考えた。なぜお湯を捨てるとベコーンというか。たいがい、ああいう焼
きそばを食べたくなるのは、夜中だろ？

八：まあ、そうですね。

25 隠：夜中にこういうことをしていると、お湯を捨てていると、途中に眠くなって寝てしまうことがある。だ
から、そろそろ**お湯が切れ**ましたよー、(d.)。

八：ああ、そうなんだ。それは知らなかった。すると何ですか、お湯が切れたぞーということを焼きそばと
か、**あっした**ちに流し台が知らせてくれるってことは、焼きそばと流し台っていうのは**デキ**てるんです
ねえ。

隠：うーん、いつごろ知り合ったのかなあ。

30 八：ああ、そうですか。これほんと何、聞いてもわかつちゃうんだねえ。隠居さん、あのね、この前、本屋
行って、ずっと本、見てたんですよ。不思議ですね。本、本を見てると、あの、**便所**に行きたくなりま
せん？いえいえ、それも**大**の方に。

隠：おまえさんも**そう**かい！

八：ああ、おいおい、隠居さんもそうですか。うれしいなあ。ええ、あれ何でなんですかねえ？

35 隠：あのなあ、少しは考え…。おまえさん、何でも私に聞きゃ何でもわかんと思って、何でも口にする。よ
くないよくない。少しは自分で考えてごらん！えー、なぜ本屋さんに行くと、**うち**がしたくなるかと

いうのはだ、な、うんちに行こうかと思ったときに、あ、**どうせしゃがむんなら**、本でも読もうって、本、持って行くだらう。

八：ええ、よく持っていますねえ。

隠：そうだろう。しゃがみながら、本を読んでいるんだ、なあ。(e.)。

5 八：ああ、そうなんだあ。はー、何でも聞いてわからないってことはないですねえ。

隠：わかったよ。ね、褒めてくんなくてもいいよ。そんなくだらないことはどうでもいいから、早くお帰り。

八：いえいえ、本題はここからなんですよ。ね、これね、これから聞くのは、**あっしの商売**に影響しますんで、ぜひ教えてもらいたいですよ。

隠：ほうう。おまえさんの商売に？そりゃ**ただごと**じゃないな。どうしたんだい。

10 八：あのね、昨日ニュース見てたんですよ。

隠：ニュース？ほう、おまえさんでもニュース、見ることがあるのかい。

八：ああ、まあ、別にニュース見たくて見てたってわけじゃないですよ。あの、ドラえもんが終わったんでね、サザエさんに変えようかなって思ったら、間違っって違うボタン、押しちゃったもんですからね、**うっかり**とニュース見ちゃったんですよ。

15 隠：何だそりゃ、うっかり見たってのは。うーん、で、どうしたんだい？

八：そしたらね、あのね、**泥棒**のニュースやってるんですよ。品川のビルの一階の宝石店に泥棒が**侵入**し、**宝石**と現金、合わせて6000万円相等が盗まれたっていうんですよ。で、犯人は**シャッターをバール**のようなもので、**こじ開けて**、車で**逃走**した**模様**ですってやってんですよ。こりゃー、わかんないんですよ。

20 隠：はあー。いいじゃないか、そのニュースで。え？何がわかんないんだい？品川がわかんないのか？

八：品川はわかりますよ。

隠：宝石か？

八：宝石もわかりますよ。あっしがわかんないのは、ほら、犯人は…。

隠：いやー、犯人はわからない。

25 八：そりゃー犯人はわかりませんよ。そうじゃありませんよ。犯人はシャッターをバールのようなもので、こじ開けて、そのバールのようなものってわかんないんですよ。

隠：何？

八：いやいや、犯人はシャッターをバールのようなものでこじ開け、そのバールのようなものってのがわかんないんですよ。

30 隠：おーい、八つつあん。えー、おまえさん、商売、**大工**だろ？大工でバールがわかんないのかよ。こりゃ驚いたなあ、バールというのはだなあ、えー、鉄のこう、棒になって、先の方が**平たくて**だ、木と木の間にに入れて、**てこの原理**を利用して、**ギーッと**。

八：んなことわかってますよ、私は。持ってますもん、**道具箱**に。そうじゃないんですよ。バールは知ってますよ。バールのようなものってわかんないんですよ。

35 隠：ああ、何だ、そんなことかい。うんうんうん、**そりゃ**別に気にすることはない。ニュースだからだ。

八：え？

隠：ニュースだから。ね、ニュースはそういう風にいうのがいいの。パールというよりも、パールのような
といった方がいいのよ。

八：いいのよって、パールでもいいんじゃないですか？

隠：いや、そうじゃないよ。ニュースらしい言い回しってあるじゃないか！えー、捜査に(f.)
5 なんてことをいうだろ？おまえ、見たことあるかい？刑事がメスを持って歩いてるの。ないだろ？…捜
査のメスが入ったあ、(g.)何か始まったなという感じがするじゃないか。解決して関係者
はホッと胸を撫で下ろしておりました、…見たことないだろ？ホッなんて言っている人は、な。そうい
うもんなんだ。だけど、胸を撫で下ろしておりましたって言われると、ああ、何かいかにも、そうそ
う、いかにもという感じがするじゃないか。それが大切だと言うんだ。うーん？おいしい味覚に皆、(h.
10)おりましたなんて、打っている奴はいるかい？えー？いちいち食べて、ツツチャ、ツツチャ、ツツ
チャ、落語家だけだ、こんなことやるのは。えー、打っちゃいねえよ、そんなもん。な、沖縄から春の
(i.)が、桜の(i.)が届きました。桜が(i.)を出すかい？出さな
いだろ。な、だから、パールというよりも、パールのようなものというとな、ニュースらしく聞こえる、深
みがあるなあ。

15 八：ああ、そうなんですか。知らなかった。なるほどね。はい、言われてみりゃ、何か深みがあるような気
がしますけどもね。えー、で、そのパールのようなものっていうのはどう、どういうものなんですか？

隠：いや、どういうものって、…八つつあん、おまえね、何でも私に聞きゃ何でも答えられると思ってるか
ら、そりゃよくない。少しは自分で考えな。おまえさんはどう思うんだ、そのパールのようなものつ
てな。

20 八：いや、その、あっしはあっしなりに考えてますよ。あんまり頭使ってないわけじゃないんですよ。考え
たんですよ。パールのようなものってのは、隠居さん、何でしょ、本当はあるんでしょ？こういうも、
ものがね。その代わり、泥棒の、泥棒の業界だけで使うやつなんでしょ？ね、そいで、すぐにシャッ
ターが開いたりなんかする、本当に専門の道具なんだ。知ってんだい！名前も、(j.)とか
なんかそういう機械なんだ。ところがそれをニュースでこれだといってその商品を出すと全国の泥棒
25 が、おお、いいじゃねえか、これ、使おうじゃねえか、というので、その商品がやたら売れちゃうと困
るので、一般の人に知られないように、その道具のことを、パールのようなものと、そう言ってんで
しょ？

隠：あー、なるほどな。ふんふんふん。まあ、おまえさんの考えそんなことだけどな。無駄なところに深い
読みをするこたあないよ。別にそんなんじゃない。誰も見ていなかったから、パールのようなものつ
30 つんだ。

八：何すか？

隠：誰も見てなかったから、パールのようなものつつんだ。

八：何すか？その見てなかったつつのは？

隠：いや、誰も見てなかったんだろ？

35 八：まあ、そりゃ、誰も見てなかったでしょうね。見てりゃ、捕まえればいいんですからねえ、泥棒をねえ。

隠：だろ？誰も見てなかったから、どろぼう、泥棒がパールのようなものということというなあ。

八：はああ、なるほど。ああ、見てりゃ、パールでいいものね。見てないから、パールのようなもの、ああ、そうか。なるほどね、そりゃ、気がつかなかった。あー、さすがだねえ。…いや、でもね、見てないんだったら、泥棒だって見てないじゃないですか。誰だかわかんないでしょ。だったら、泥棒が、じゃなくて、泥棒のようなものが、侵入し、でしょ？

5 隠：また、おまえは、そういう浅い考えでんじゃないよ。えー、泥棒のようなものって、泥棒に決まってるじゃないか。ものが盗られたんだろ？現金と宝石が。それじゃ、何かい？お客さんが夜中に宝石を買いに来て、シャッターが閉まってるもんで、しょうがないから、自分でこじ開けて、宝石を盗って、現金を置いてったわけじゃないだろ？宝石と現金と両方盗られて、これを世の中で泥棒と言わないで何と言う？泥棒に決まっているから、泥棒が、でいい。

10 八：あ、なるほど。決まってるから、泥棒でいいんだ。ああ、なるほどね。あ、そうかそうかそうか。車だって、そうじゃないですか。誰も見てないんですよ。車のようなもので、逃走し、…でしょ？

隠：そりゃ、タイヤの跡がありゃ、車だろう？タイヤの跡があるのに、像の背中で逃げたってこたあないだろ？車で逃走し、でいいんだ。

15 八：ああ、そうか、なるほど。わかってないのはパールのようなものだけか。そうだね。ああ、なるほど。…いや、そうなるとね、ご隠居さんね、あっしや、困るんすよ。

隠：何が？

八：何がってたって困るんすよ。何でもいいんでしょ。見てないんだから、見てないんだったら、そりゃね、スコップのようなものとかね、え、何でもいいじゃないですか。ハンマーのようなものとかね、斧のようなものでって、何でパールにするんです？いや、というのは、あっしや、商売道具、道具箱の中にパールが入ってるでしょ。これで表、歩くでしょ。捜査の検問に(k.)。おまえの道具箱を開けろって開けたら、パールが出てきて、この一、怪しい奴、こっちへ来いっていわれて、いちいち、(l.)、あっしや、商売できないっていうですよ。道具箱、運べないじゃないですか。それが嫌なんですよ。他のものにすりゃいいじゃありませんか。

20 隠：ああ、おまえさん、それ、心配してんの？道具箱、開けて中からパールが出てきて怪しい奴だと言われる、そりゃ心配することない、それは心配する・こと・ない！パールのようなって言ったら、パールじゃないから。

八：な、何で？

隠：な、何で？何でって、そのまんまだもん。ギャグでも何でもない。パールのようなって言ったら、パールじゃない。

30 八：んなこたあないでしょう。パールのようなってんだから、パールの、パールでしょう。

隠：パールじゃない。わかんないなあ、おまえさんは。え、じゃ、女のようなって言ったら女かい？

八：女のような…女のような女…って言いませんわね。女のような奴って言いますけど、男ですね。

隠：そうだろ。ダニのようなって言ったら、ダニかい？

35 八：ダニ…、ダニのようなダニってことはないですもんね。ダニのようなって言ったら、ダニじゃありませんね。

隠：だろ？パールのようなって言ったら、パールかい？

八：は一、そうか。のようになっていったら、それじゃないんだ

隠：そりゃそうだろう。えー、何か喰ってて、これは肉のような味がするって、これ、肉かい？肉じゃないだろう。ハワイのようになって言って、ここ、ハワイかい？夢のようになって言って、夢かい？

八：なるほどねえ。あ、そうなんだあ。パールのような、パールじゃねえんだ

5 隠：そうなんだよ。だから、おまえが呼び止められて、開けられて、え、そんな嫌な思いをすることはないから、安心しな。

八：あー、そうですね。開けて、あ、何だ、このパールは！怪しい奴だって言われたら、冗談言うない！おまえ、ニュースで何って言ってるか、よく聞けよ、**こんちくしょう**！え、パールのように言ってんだい！パールのように言えば、パールじゃねえんだい！へい、このバカー、なんってことを言えるわけなんですね。

10 隠：まあ、バカまで言わなくてもいいが、まあ、そこそこ言えるなあ。

八：ありがたい。ホントにありがたい。これで明日からまた道具箱、表、歩けますよ。いやー、隠居さん、ありがとうございました。

15 隠：ありがとうございましたじゃない！え、まあ、そんなことしか聞かないようじゃしょうがないけど、どうでもいいよ。とにかくな、あの、もう**日が暮れて**きたぞ。え、うちで**かみさん**が飯、**支度**してんだろうから、あ、早く帰ってやんな。

八：くっ、くっ、嫌なこと思い出させますね。今、うちのカカア、これなんですよ。

隠：何だい？**どうしたんだい**？

20 八：いやー、大したことはないんですよ。飲み屋にいい女がいましてねえ。可愛いんです、えー。ちょっとね、向こうもこっちに (m.)、**ここんとこしょっちゅう**通っているんですよ。えー、それがわかつちゃったん、んー。この前ね、どこ行くのってから、熊公といっしょに飲みに行くんだってそう言ったらね、あっしが出たあとですよ。うちのカカアが、じゃあ、熊公んところのおみつつぁんとさみしいだろうから、いっしょにお茶でも飲んでお菓子でも食べようってんで、熊公のうちへ言ったんですよ。そしたら、熊公そこに居やがるんですよ。で、熊公もバカですよ。何とか取り繕って、今別れたばかりだとか**言や**あいいものを、えー、あいつの行っている飲み屋に女が居てなんてこと、言いやがってね。何なら、教えましょうかなんてこと言いながら、場所、教えやがんの、バカ、ホントに。しょうもないもんだから、うちのカカア、来やがって、え、戸を開けたら、そこでもって、椅子のところで、こんなになって、へい〜へい〜やってた、もうガァー…。それ以来、**口きいてくれません**しね、飯もこさえてくれないんですよ。

30 隠：あらー、それは可愛そうだな。

八：何かこうね、うまい、何て言うんですか？謝り方というか、こう、スッと、こう元に戻る法ってものないもんですかね。

隠：そりゃあないよ。

35 八：ないですか？隠居さん、これだけいろいろ知ってんですから、女の何か気持ちが**グッ**とこうわかるような、そういう何か、何かないんですか？

隠：そういうものがあつたらなあ、わしのこの額の**絆創膏**はない。

八：あ、隠居さんも何かあったんですか。

隠：あー、わしもうっかりテレビ見ていて、黒木瞳っていい女だなあ、ばあさん、と言っただけで、もうすでにやかんがここに当たっていた。まあ、女心だけはわからんな。

八：わかりませんか。

5 隠：そればかりは自分で考えな。

八：自分で考えます。どうもいろいろありがとうございました。どうも…。

あー、嫌なこと思い出しちゃったね、ホントにまあ。せっかくなあ、隠居と話してる時に、サーッと頭は違うところに行ってたんだけどもねえ。

10 八：怒ってやんね。ううん、こういう時にはね、気にして入って行くところくなこたあねえから、思いっきり陽気に入ってた方がいいだろうな……♪ハエ〜ハエ〜ハエ〜♪、ただいま！

嫁：どこ、行ってたんだよ、(n.)！んとにもう、え！また女のところ、行ってたのか？女のどこ、行ってたのか？

八：そうじゃないよ。隠居のどこ、行ってたんだい。

15 嫁：嘘をつきな！隠居のどこなんかじゃないよ。この間だって、熊さんのところで飲んでるって、女のどこ、いたんじゃないか！ホントに。女といたんだろ！(o.)！女といたんだろ、あの妾と！

八：おまえ、大きな声で、妾、妾なんて言うなよ。あの女、そんなんじゃないよ。妾なんかじゃないよ。

嫁：はあー、あ、そう。あれだけのいちゃいちゃしておきながら、妾じゃない？ほう、じゃ、何なんだい？

八：何なんだいって、そういうこと急に聞かれたって、おまえ、妾じゃないんだよ。…妾のようなもんだよ。

嫁：よく女房の前でそういうことが言えたね。何なんだい、そりゃ。

20 八：何、怒ってんだよ。言ってることよく聞けよ。あれは妾じゃない、妾のようなもんだって言ってるんだよ。

嫁：落ち着け？女房の前で、あの女は妾じゃない、妾のようなもんだと言われて落ち着く女房がいたら、(p.)！

25 八：バカ！おまえは！おまえね、今、その、のどを切らすようにして出した声をあとで後悔するよ。よく聞け！女のような奴って言ったら女かい？

嫁：おまえみたいな奴だよ

八：余計なこと言うなよ。え？ダニのような奴ってたらダニかい？

嫁：おまえみたいな奴だってんだよ

八：だろ？妾のようなものって言ったら…。

30 嫁：妾だよ。

八：いや、そうじゃない。落ち着け。おまえ、え？女のようなって言ったら。

嫁：おまえだよ

八：ダニのようなって言ったら？

嫁：おまえだってんだよ。

八：だから、妾のような…。

嫁：妾だよ。

八：何でそうなるかなあ？おい、え？肉のようになって言ったら肉か？違うだろ？ハワイのようになって言ったら、ハワイか？ハワイじゃないだろ。なあ？夢のようになって言ったら、夢じゃないだろ？妾のようなど
5 言ったら？

嫁：妾だよ！ホントに、おまえさん、おかしくなっちゃったんじゃないかい？この道具箱で！バカー！

八：あ、痛たたたた！おー、痛てえ、畜生め！覚えてやがれ、あとで後悔するな！よく考えてみろ！おめえ
のやったことは、畜生め！本当にまあ。…隠居さん、隠居さん。

隠：おいおい、どうしたい？あら！どうした？

10 八：(q.)よ。えー、機嫌とろうと思って言ったら、殴られちゃった。

隠：何だい？機嫌をとろうって？

八：そう！妾はどうした、また、妾のところに行ったのか、あの妾はどうした、妾、妾って、うるさくて
しょうがないものだから、あれは妾じゃないんだ、妾のようないんだってそう言ったんですよ。

隠：バカだなあ、おまえ、それだけは言っちゃいけない言葉だぞ。

15 八：何ですか？女のように言ったら、女じゃない。ダニのように言ったら、ダニじゃない。妾の
ように言ったら妾じゃないでしょう。

隠：いや、違う。それは違う。世の中の言葉の中で、妾だけは『ような』をつけちゃいけないんだ。よく考
えてごらん。妾のような女って言ったら、妾だろう。

八：妾のような…、妾？妾のような女って言ったら、確かにこれ、め…、妾ですね。

20 隠：妾ですねどころじゃないよ。妾だけは、『ような』をつけると意味を強めることになる。

八：えええ？だから、殴りやがったんだ！

隠：そんなことはどうでもいい。早く病院に行った方がいい。血が止まってないぞ！どうしたんだ？

八：どうもこうもありませんよ。(r.)、あっしの道具箱をパーッと開けたかと思うと殴られ
ちゃったんですよ。痛くてしょうがありません。これ、どうなってます？

25 隠：どうもこうもないよ。えーっ？パツクリと口が開いて、こりゃ、血が止まらないぞ。

八：あーっ、弱っちゃったなあ。何で殴ったから、こんな傷がついたんですかねえ？

隠：いやあ、何で殴ったかって？…バールのようないんだらう。

— 終 —

志の輔：今日はお忙しい中、清水義範さんが、えー、来ていただきました。皆様にご紹介をさせていただきたいので、ございます。えー、清水さん、どうぞ**ステージ**の方にお上がりください。

清 水：おもしろかったです。

志の輔：ありがとうございます。

5 清 水：よく思いつきますね。

志の輔：いや、というより、今日の感想でいうと、私、よく覚えたなど、それだけはね、自分で、これだけは、自分で誇れる。このスケジュールで、これだけ、覚えられるというのは、今、日本の落語家じゃないでしょうね。パールのようなもののタイトルから、もう、パールのようなもの、これをいただきましたんですけども、あれで**考え方は合っていますか**？

10 清 水：そういうことですね。あの、いや、妾のようなものは**見事**でしたね。

志の輔：ええ、まあ、それは。

清 水：それは、どうするのかと。あれはもう私も思いつかなかったアイデアで、**感心**しました。

志の輔：本当は「女房」もそうなんですね。あの、あの女の人、誰なのよ？女房のようなもんだよ。

15 清 水：謙遜した言い方でね。そうだって言っては**僭越**だから、まあ、それに似たようなものですよ、ということですね。

志の輔：はいはいはい、それは本当の奥さんだった場合じゃないですか。

清 水：えーえーえー。あ、そうじゃなくて？

志の輔：そうじゃなくて、違う女の…。

清 水：女房のようなもの。

20 志の輔：それを女房の前で言うんですよ。

清 水：ああ、そういう。

志の輔：その人、誰なのよ。いやー、女房のようなもんです。

清 水：ああ、そりゃー。(笑)

清水義範



清水義範（しみず よしのり、1947 年 10 月 28 日 - ）は、日本の小説家。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/清水義範>

略歴

- 1981 年 『昭和御前試合』により、一般向けデビュー（ということになっている）。
- 1988 年 『国語入試問題必勝法』により第 9 回吉川英治文学新人賞を受賞。
- 『金鯱の夢』、『虚構市立不条理中学校』、『柏木誠治の生活』で直木賞候補になるがすべて落選（以上『やっとかめ! 大（でゃあ）名古屋語辞典』より引用）。
- 2009 年 中日文化賞（「名古屋文化の神髄紹介とユーモアあふれる作風」）受賞。

立川志の輔



出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

立川志の輔（たてかわ し のすけ、1954 年 2 月 15 日- ）は、富山県新湊市（現射水市）出身の落語家、タレント。本名、竹内 照雄（たけうち てるお）。左利きで血液型は A 型。オフィスはたるいか所属。出囃子は『梅は咲いたか』。2007 年 芸術選奨文部科学大臣賞受賞。

数多くの新作落語を創作し口演もしており、小説家清水義範の短編小説「パールのようなもの」を元にし許可をもらい、新作落語「パールのようなもの」を創作口演。それ以降交流のある清水からは「自分の作品はいつでも落語にしても良い」との御墨付をもらっている。他にも、清水義範の短編小説やエッセイ等より、「バスが来ない」からは「バス・ストップ」、「みどりの窓口」（落語も同名）等があり、志の輔が口演する新作落語の代表作となっている。